



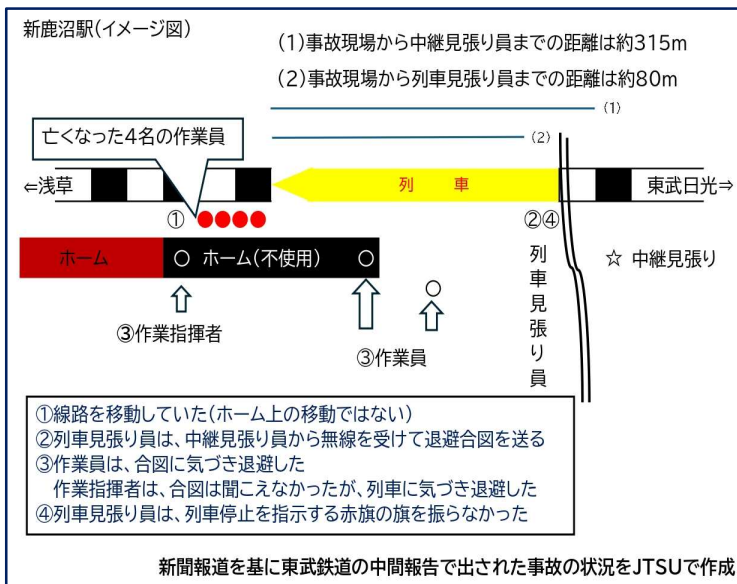
問われる安全軽視の企業体質！ 東武鉄道の中間報告書より

意見すると「怒られると思った！」

東武鉄道は9月30日、東武日光線新鹿沼駅で除草中の作業員4人が特急列車にはねられ死亡した事故で、現時点で明らかとなった事故の経緯や防止策をまとめた中間報告書を国土交通省関東運輸局に提出しました。経験不慣れな現場責任者が配置や待避先を指示せず、当日いるはずのない上司が移動の指示を出すなど、正しい指揮系統になっていなかったことを明らかにしました。

問題点が次々と…

- 現場責任者の上司が現場に来ることは会社も把握しておらず、**現場関係者も知らされていなかった。**
- 現場責任者は、**除草作業の指揮をするのは初めてで、「(上司は)自分よりも経験が豊富で、任せておけば安心だと思い、自然と委ねた。**
- 待避の位置や合図などは打ち合わせをせず、指示もなかった。**
- 列車との距離が近いのにホームの下を歩く理由が分からない作業員もいたが、**「意見を述べると怒られると思い何も言わず立ち入った」**



- 列車見張り員が作業員にハンドマイクのブザー音と声で待避合図を出したが、**作業責任者は待避合図が聞こえておらず、目線を上げると列車が接近していることに気づいて自分だけホーム上に待避した。**
- 列車見張り員は、**列車を止めるための赤色の旗は出していない。**

無くならない作業中の死亡事故！

私たちの職場に照らし合わせ、

1つひとつの作業に向き合おう！

命よりも大切なものはありません！

仲間と自分の命を守るための行動を！